

平成 22 年度 自己評価表 < 中間評価 >

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>1. 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。 2. 実践的な学習をとおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。 3. 様々な教育活動をおとして、他人を思いやり、友情を育み、心身ともに健全な態度を養う。 4. 職業に関する資格・検定の取得に努め、望ましい勤労観・職業観を育て、進路意識の高揚を図る。</p>
---------------------------	--

<p>今年度の 重点目標</p>	<p>1. 心身ともにすこやかな身体づくり 2. 就職と進学に応えられる学校づくり 3. 地域・地元へ愛され、信頼される学校づくり 4. ものづくり教育の推進</p>
----------------------	---

評価項目	評価の具体項目	年 度 当 初			評価結果 (9) 月		
		現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 心身と もにすこ やかな身 体づくり	<p>生徒一人ひとりを生かす人間教育を促進する。図 保護者との連携を り、正しい倫理観・道徳 観を身に付けさせ、基本 的生活習慣を確立させ る。特に『躰教育』を大 切にする。</p>	<p>ほとんどの生徒が、 気持ちよく挨拶をする ことができ、服装、マ ナー、エチケットも向 上している。 生徒と教員とのよい 関係も築けている。 また、環境に対する 意識も向上し、ゴミの 分別や清掃も概ねでき ている。 学年が進行するにつ れて、意識も行動も向 上するが、学校外にお いて校内と同じ意識を 持つという点では、ま だ十分な面がある。</p>	<p>○気持ちのよい挨拶の 定着 ○社会人として通用す る身だしなみ、マナー、 エチケットの定着 ○敬語の使い分け、時 間厳守の励行などの基 本的ルールの体得、特 に遅刻は一人年間0. 3回を目標とする。 ○部活動に全員が加入 し、部活動を通じた基 本的生活習慣の確立 ○環境に配慮した行動 がとれる。</p>	<p>・部活動を含め、学校生活のあらゆる場面で、 時間厳守・挨拶・服装・言葉遣い等のルール やマナー、エチケットについての指導、5S (整理・整頓・清掃・清潔・躰) + AF (挨 拶・服装) 活動を教職員全員が同じレベルで 一致して行う。 ・3年生の就職、進学指導の際、全教職員で 面接、挨拶、マナー指導を行う。 ・遅刻届・遅刻ボードを活用する。 ・一斉部会、活動状況調査を活用し全員加入 を促進すると同時に、退部者の他の部活への 移行に努める。 ・朝掃除を徹底するとともに、各教室・執務 室のT E A S点検活動を実施し、継続的な改 善を図る。</p>	<p>・時間厳守・挨拶・服装・言葉遣い等 生徒たちの基本的生活習慣、マナー・ エチケットについては、概ね定着して いる。 ・ほとんどの項目については、教職員 が同じレベルで指導できているが、女 子生徒の横髪指導については学年によ る差が見られる。 ・部活動における生活指導も効果をあ げている一方で、部活未加入者の中に 生活の乱れが見受けられる。 ・3年生の就職希望者を対象に、全教 職員で面接、挨拶、マナー指導を行っ ている。 ・遅刻状況 8月末現在 49人 (昨年度69人) ・クラブ加入率は94% (7月時点) で あり、ほとんどのクラブで顧問による 熱心な指導が行われおり、生徒も積極 的に活動している。 ・加入はしているが実動が伴わない生 徒や退部生徒がやや増加傾向にある。 ・おおむね、積極的に清掃に取り組み 環境を意識して、ゴミの分別・節電・ 整理整頓をおこなうことが出来ている。</p>	B	<p>・外部からの高い評価を積極的に 伝えることにより、生徒たちに達 成感を与える。 ・3年生には上級生としての自覚 を促し、1, 2年生にはそれを模 範として、意識の向上を図る。 ・ルールや校内の決めごとを再確 認し、さらに教職員の指導レベル の一致を図り、指導を継続する。 ・部活動加入の促進を図ると同時 に、部活動での生活指導を継続し て行う。 ・継続実施。 ・担任だけでなく、副担・クラス 付き・科職員・教科担任などの様 々な立場から部活への加入を勧め る。 ・12月にも活動状況調査を行い、 加入促進に努める。 ・継続実施。</p>
2. 就職と 進学に応 えられる 学校づく り	<p>早期に進路意識を自覚 させ、就職・進学の支援 体制を一層整備する。と また、地域や企業と連 携し、『実践的な『キャ リア教育』を推進し、生 徒の興味・関心や適性 に着目した進路実現を 特に、資格取得の奨励 に力を入れ、起業家精 神を育てる。</p>	<p>自分の進路を自覚 し、目標を持って入学 し、多くの生徒ははっ きりした進路目標をも つていない。 また、基礎学力の定 着や文章力、表現力に 十分さがある。支援を 進学希望者の学習支 援委員会を組織して 図るため、進路指導 委員会の組織として ト</p>	<p>○進路説明会、進路学 習会等による進路意 識の育成 ○デュアルシステムの 導入やインターンシ ップの充実による勤 労観・職業観の育成 ○学習指導委員会を中 心とした、進学希望 者に対する進路指導 論文指導の充実</p>	<p>・進路講演会・進路学習会・進路説明会・進 路LHR等を計画的に実施するとともに、企 業や産業界の情報を積極的に伝える。 ・職場見学やオープンキャンパスへの積極的 参加を促す。 ・インターンシップの事前・事後指導を充実 させる。 ・資格取得に向けて、補習等計画的に準備し、 全員合格・上位級の獲得を目指す。 ・学習指導委員会を定期的開催し、進学希 望者に対して時機を得た指導を行う。</p>	<p>・進路講演会、進路学習会、進路説明 会、進路LHR等を行い進路意識を持 たせることに努めたが、低学年ほど進 路意識が低い傾向にあり、さらなる工 夫が必要である。 ・インターンシップ、社会人講師によ る授業により、企業・産業界情報を生 徒たちに伝えることができた。 ・積極的に応募前見学会に参加させ就 職試験に備えるとともに、進学希望者 にはオープンキャンパスへの積極的参 加を指導している。 ・クラス単位でインターンシップ報告 会を行った。 ・「インターンシップ」「ビジネス実習」 が、自らの進路・将来について考えるき っかけとなり、勤労観や就労意識が身 につき始めている。また、社会におい て挨拶やマナーがいかに大切かを自覚 できた。 ・長期インターンシップ (デュアルシ ステム) では、生徒からは参加して良 かったという感想が聞けた。 ・各科の計画的な指導に応え、生徒は 資格取得に積極的に取り組んでいる。 特に、電気システム科は、前期資格試 験において昨年以上の合格率であった。 ・進学課外、進学夏季学習を実施し、 学力向上に努めた。個人添削について は継続中である。 ・進学希望者の指導については個人指 導に頼る部分が多く、学校全体の指導 体制が未整備である。</p>	B	<p>・1, 2年生に、各科の卒業生の 話を聞かせ、実際の情報を直接伝 えることで、意識の高揚を図る。 ・3年生の面接練習の様子や実際 の面接の場を見せることにより、 早い段階から意識づけを行う。 ・継続指導。 ・継続指導。 ・類似先進校視察を行い、進学者 支援の学校体制を確立するための ノウハウを取り入れる。</p>

				<ul style="list-style-type: none"> ・小論文指導研修を行い、全教職員による小論文添削をより効果的なものにする。 ・大学・短大・医療系進学希望者に対して、定期的に課題を提示するとともに集会を実施する。 ・各学科、教科で実施される資格・検定試験の準備に活用できる図書や資料を整備する。 ・PTA総会後の学年別懇談会、クラス懇談会やPTAだより等を利用して『進路指導』に関わる情報を提供し、保護者の理解と協力を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による作文・小論文指導を行ったが、顕著な効果はまだ見られない。 ・3年生については進路別に情報を提供し、個別指導を実施中である。 ・各学年懇談会で進路状況の情報提供を行った。 ・1年生については、進学希望者14名で夏休みに2回勉強会を開き、課題を与えた。 ・上記方策は実施しているが、その効果はまだ十分とは言えない。 ・各学年個別取組にとどまっている。 ・検定、資格コーナーが検定試験や就職試験の準備をする生徒および教職員に活用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文研修の報告・伝達講習を行い、全教職員で共有し、実際の指導に活かす。 ・小論文指導に面談を取り入れる。 ・進路指導部あるいは学習指導委員会を中心に、3年間の進学指導体制を再検討する。 <p>さらに充実させて要望に応えられるよう準備中である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA広報委員会と協力し、PTAだよりに、進路に関するスペースを確保し、情報提供を行う。
3. 地域・地元を愛され、信頼される学校づくり	<p>学校開放・学校評価を地域に具体化し、PTA・地域との交流を進め、学校PRに努める。</p> <p>HPによる情報発信等、広報活動をより充実させ、保護者・中学校関係者が本校教育活動に参加できる機会を増やす。</p> <p>産業界と双方向の交流を進め、相互理解に努める。</p>	<p>学校行事カレンダーやホームページ等により、保護者や地域、企業の方にも学校の様子を知ってもらえるようになった。</p> <p>また、課題研究等による地域との交流活動が定着し、好感を持って地域に受け入れられている。</p> <p>中学校へ出向いての学校説明会や教員体験入学により本校への理解が進んできている。</p>	<p>○地域と連携した取組の充実</p> <p>○本校理解のための情報発信の充実</p> <p>○中学校に対する学校説明の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特に「くらそうや」の一層の充実のため、他科も含めた学校全体の取組となるようにする。 ・各科の特色を生かす地域と連携した活動を充実させる。 ・くらそうサロン、くらそうパソコン教室、空飛ぶ車いす、電気と福祉、中学生工作教室、保育体験活動、倉吉養護学校との交流、地域公民館との連携等 ・地域ボランティア活動に積極的に参加し、地域との交流を一層深める。 ・各科と進路指導部が連携し、積極的な企業訪問を行う。 ・「PTAだより」や学級通信、ホームページ等による情報発信を充実させる。 ・中学生体験入学、中学校の先生の体験学習の参加者を増やし、さらに内容を充実させ、本校での学習内容の理解につなげる。 ・中学校説明会で本校の現況を積極的にアピールする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科が連携し、「くらそうサロン」「くらそうや」は学校全体として取り組んでいる。 ・社会人講師活用事業・校外実習・課題研究を通して地域との交流・連携を行っている。 ・夏の中学生工作教室は、参加した中学生からは好評であった。 ・保育体験・倉吉養護学校との交流は計画通り進行中である。 ・各種ボランティアにも積極的に参加している。 ・各種情報をホームページで発信しており、その更新頻度は昨年以上である。 ・中学生体験入学では多くの参加者があり、本校への理解度が高まったと思う。一方、中学校教員体験学習では参加者が少なかった。 ・中学校へ出向いての学校説明の内容を検討中である。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「くらそうや」で、他学科との一層の連携を図りたい。(商業) ・今後も継続して行う。(生活デザイン) ・情報発信の内容の検討。 ・学校祭・実習棟公開などの学校行事を活用し、地域との交流活動や学校PRを充実させる。 ・平成23年度の教育課程を見ながら検討する。
4. ものづくり教育の推進	<p>地域産業界と連携した「ものづくり」教育を推進する。特に技術指導面の連携を図る。</p> <p>「ものづくり=ひとつづくり」という共通認識の下、学科の枠を越え、協力して「ものづくり」に取り組める体制づくりに努め、総合選択制の特色を活かす。</p>	<p>「ものづくりコンテスト」への取り組みや社会人講師による指導によって、より高いレベルの技術を習得し、技術を習得するだけでなく、活かそうとする取り組みも行われている。</p> <p>しかし、ものづくりは製造分野だけでなく、環境づくりやアイデアづくりなどすべての分野に通じるものであることの認識に不十分な面がある。</p>	<p>○学校設定科目「産業基礎」の一層の充実</p> <p>○技術系クラブ活動の充実</p> <p>○学科の枠を越えた資格取得の取組の推進</p> <p>○各科連携による「ものづくり」の推進</p> <p>○課題研究発表会の一層の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「産業基礎」の評価方法の確立を図る。また、納得のいく進路決定に結びつくように内容を一層充実させる。 ・技術系クラブや資格試験に関して、他科の生徒を受け入れられるよう検討、実施する。 ・各担任・各科が連携し、資格取得に向けての指導を徹底する。 ・「課題研究」において、各科の連携を一層強化する。 ・「ものづくりコンテスト」への取組を推進する。 ・「課題研究発表会」・「実習棟公開」などを積極的に外部へPRする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「産業基礎」では年度始めに評価基準を決め評価方法の確立に努めた。進路学習を行なうことにより、進路意識の向上に努めた。 ・「産業基礎」を充実させるため各科、学年が連携を図り、事前に準備をして進めている。 ・ビジネス研究部・マルチメディア研究部への他学科からの入部者が増えてきている。一方、機械工学部は1年生の入部が無く、減少している。 ・各科で資格指導の取り組みがうかがえる。 ・各科が「くらそうや」で販売するために科の特性を活かしたアイテムを製作している。 ・各科がそれぞれ他科からの様々な要望に対して協力、対応している。 ・「ものづくりコンテスト」に向けて選手を決めて練習を始めている。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続実施。 ・年度末に産業基礎検討委員会を開いて来年度のことを検討する。 ・継続実施。 ・継続実施。 ・継続実施。 ・具体案（ホームページ、新聞、チラシ等）を検討、実施する。

評価基準 A：十分達成 [100%] B：概ね達成 [80%程度] C：変化の兆し [60%程度] D：まだ不十分 [40%程度] E：目標・方策の見直し [30%以下]